

パキスタン洪水に対する日本赤十字社の対応



赤十字の支援による住宅支援により安心して暮らせるようになった住民

2013年3月

首都：イスラマバード
言語：ウルドゥー語
人口：1億7,710万人

(2012年パキスタン経済白書)

パキスタンイスラム共和国



面積：796,000k m² (日本の約2倍)

宗教：イスラム教

雨季：7～8月 (モンスーン)

【1. パキスタン洪水；災害の概要】

- 発生時期：2010年7～9月
- 被災地域：カイバル・パクトゥンクワ州、連邦直轄部族地域、ギルギット・バルチスタン州、カシミール地方、パンジャブ州、シンド州、バロチスタン州など
- 死亡者数：1,985人
- 負傷者数：2,946人
- 被災家屋：175万棟
- 被災者数：2,000万人



国土の5分の1が浸水、人口の約10分の1が被災するなど、同国建国史上最悪の自然災害に。特に穀倉地帯の被害は深刻でした。

【2. 日本赤十字社の緊急救援】

- 救援物資（防水シートや毛布、キッチンセット等）の購入および輸送を実施しました。
- 基礎保健 ERU（緊急対応ユニット）を活用して2010年8～12月に渡り延べ12人の職員を派遣、南部シンド州を拠点に病院や避難所での巡回診療を実施しました。ノルウェーおよびフランス赤十字社とのジョイントでの活動でした。
- 国際赤十字の緊急アピールに対し、1,000万円を拠出。



新生児の健康状態をチェックする日赤の助産師

【3. 日本赤十字社の復興支援】

- 緊急救援後、被災者の支援のために復興支援を実施しました。

国際赤十字を通じた個人住宅支援

パンジャブ州、シンド州の11,500世帯を対象に実施されている住宅支援事業に対して資金を拠出。2012年8月までに日本赤十字社の資金がパンジャブ州で640世帯、シンド州で1,890世帯の計2,530世帯の支援に活用されました。また、事業のモニタリング・評価を担当する職員1人を7カ月間派遣しました。



住宅の外観は受益者の自己負担で装飾を施すことができる

「ありがとう」の声

2012年11月、国際赤十字による個人住宅支援の進捗確認のために、日赤の職員がモニタリングを行いました。受益者のバルカタリさん（写真のターバンを巻いた男性）は次のように話します。「5人家族で子供が3人。住宅は今月完成し、移り住んで15日になります。自分の家を持つことができるととても嬉しいです。以前は泥で作った家に住んでいて、雨が降ると天井が落ちてくるなど、とても安全な状況とは言えませんでした。今の家は洪水の被害を受ける心配もなく、とても安全で落ち着いて暮らすことができます。赤十字からの支援に感謝しています」



【4. パキスタン洪水2010 救援金使途（2013年3月現在）】

国際赤十字への緊急アピールへの拠出	1,000万円
救援物資の購入、輸送	1,899万円
基礎保健 ERU の出動	2,376万円
個人住宅支援	7,500万円
策定中の事業	1,710万円
要員派遣費	614万円
事業管理費	1,351万円
合計	1億6,450万円

みなさまのご支援ありがとうございます。日本赤十字社の国際活動についてはホームページも是非ご覧ください。 <http://www.jrc.or.jp/kokusai/index.html>